



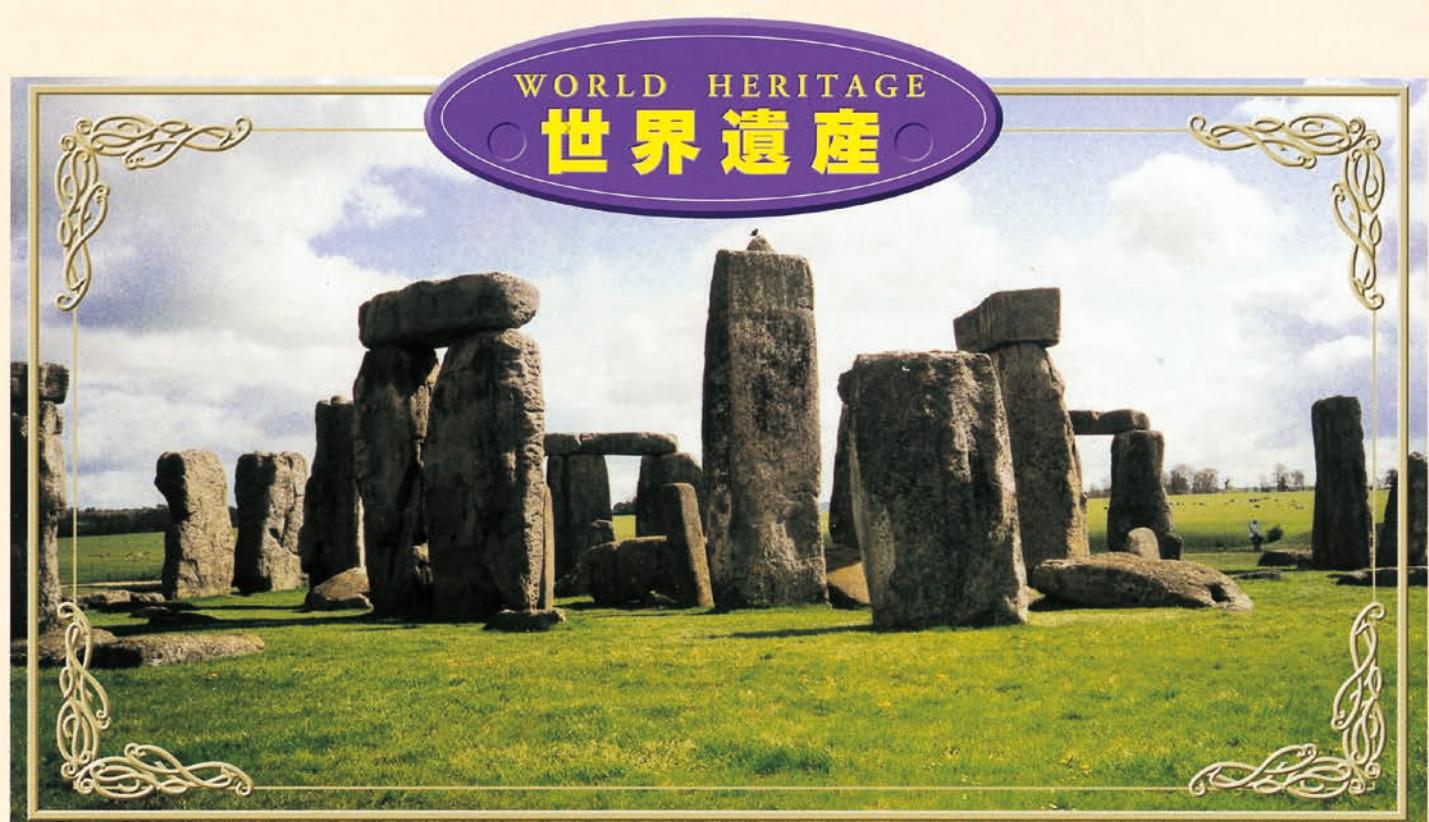
財団法人栃木県国際交流協会  
Tochigi International Association

TIAニュース



# やあ!

1999  
NOVEMBER  
No.64 11



▲イギリスのソールズベリー平野にあるストーンヘンジ。紀元前3100年から紀元前1100年頃にかけて建設されたというこの巨石環は、「悪魔が作った」「巨人が岩になった」等の伝説から「UFOの産物だ」という飛躍した説まで飛び出すなど成り立ちは謎に満ち、使用法についても諸説ある。巨石の位置と月や太陽が沈む位置が合致していることから「天体観測に利用されていた」という説が有力視されている。

特集

## とちぎインターナショナル フェスティバル'99

**TIAホームページ**

URL <http://www.pto.co.jp/tia/>

- ◆ J E T コーナー エドムンド・エドガーさん (イギリス出身)
- ◆ トピックス ▶ フランス・ヴォークリューズ県から大学生と高校生が来県  
▶ ふるさとづくり事業で日系ペルーア人が来県  
▶ ふるさとマロニエフェアでインディアナを紹介
- ◆ レポート ▶ 浙江省国際友好都市交歓会県民訪中団派遣  
▶ 外国人のための法律相談会
- ◆ こんな店あんな店 中華料理・羅紗

# JETコーナー

外国語指導助手  
エドムンド・エドガーさん  
(イギリス出身)

私はエドムンド・エドガーといいます。24歳です。イギリスのウイタムというベッドタウンから来ました。語学指導助手として日本に来てから2年になります。最初の年は真岡高校に勤務し、現在は那須郡の中学校を4か所受け持つて教えています。



私の住んでいる西那須野町のアパートの窓は塩原に面しています。毎朝、その窓から外を見ると、水田と山々が広がっています。そして、雲の上から山のてっぺんが突き出て見えます。

ある日、イギリス人の友達に、その景色を見せてあげようと写真を撮りました。友達にその写真を見せた時、友達は、「何で変電所なんか写真に撮ったの?」と聞いてきました。実は、変電所だけではありませんでした。電線も結構出ていました。そうした変電所や電線の後方に、山が何となく見えるといった感じでした。山頂には鉄塔をいただいて。

私はこうした変電所や電線には全然気づ

きませんでした。日本にいる最中、醜いものを見ないようになったようです。日本に対する愛情のせいででしょう。

私が語学指導助手として仕事をするのは来年の7月までです。その後も、別な仕事を探して日本にいるつもりです。少なくとも、電線や鉄塔が目にさわるようになるまではいるのではないかでしょうか。

My name is Edmund Edgar. I am 24 years old. I'm from Witham, a small town in Britain. I have been living in Japan as an ALT for just over two years, first at Moka High School and then at four junior high schools in Nasu-Gun.

I live in Nishinasuno-machi. The window of my apartment looks out towards Shiobara. Every morning I look out across the rice fields and see the mountains, their peaks jutting out above the clouds.

One day, I decided I'd like to show people back home where I lived, so I took a photo. When I showed it to my friend, he said, "Why have you taken a picture of an electricity transformer station?" To be fair, it wasn't just an electricity transformer station. There are some telephone wires as well. Lots of them. Behind them, you could just about see the mountains. With a large electricity pylon on top.

I had not noticed any of this. Some time during my two years in Japan, I've stopped seeing the ugly bits. It must be love.

My job as an ALT runs until next July. After that I plan to look for a new job and stay here indefinitely. Or at least until I start seeing the wires again.

する情報の中から自分が必要とするものを探すのが時として困難なことがあります。この本はそうした時に役立つガイドとなる。また、ホームページや電子メールアドレス以外にも、団体の活動分野や対象国がわかるようになっており、団体名簿としても活用できる。(財団法人国際協力推進協会編集・発行／非売品)

## ●風の記憶 先住民族抵抗の500年



中米の国の中のひとつ、グアテマラ。この国では人口の約60%が先住民族、つまり「アメリカ発見」以前からこの土地に住んでいた人々の子孫である。「新天地」の発見者たちがバハマ諸島にたどりついた時、彼ら先

## TIA日誌

1999年9月1日～1999年10月31日

- 9/1 インディアナ州訪問産業交流調査団  
反省会(宇都宮市・ホテル丸治)  
9/9 外務省招聘海外技術研修員理事長表敬(センター)  
9/17 国連中学生作文コンテスト栃木県大会審査会(センター)  
9/21 海外技術研修員日光観察  
9/22 浙江省との定期協議団派遣(～28日)  
9/24 浙江省国際友好都市交歓会県民訪中  
團派遣(～29日)  
10/4 浙江省農業科学院訪日代表団来県  
(～11日)  
10/15 ペルー・ボリビアとの国際交流を通じたふるさとづくり事業地方プログラム受入(～20日)  
10/22 ふるさとマロニエフェア(栃木県等  
主催/宇都宮市内/～24日)  
10/30 とちぎインターナショナルフェスティバル'99開催(センター/～31日)

\*センター：とちぎ国際交流センター

<企画展示室の催し>

9/11～24 モザンビークの子供たちの絵  
画展

とちぎインターナショナルセンター利用の  
ご案内

1階、インターネットコーナー、マルチメディアコーナー(図書・ビデオ等)、インフォメーションボードはどなたでもご利用になれます。詳しくは1階受付カウンターまでお問い合わせ下さい。

住民族の500年にわたる苦難の歴史が始まった。そして、彼らに対する差別と迫害は、数多くの犠牲者を出しながら、今もなお続いている。

このビデオでは、グアテマラのサンティアゴ・アディトランで1990年に実際に起きた事件を中心に、生きる権利を勝ち取るためにたたかう先住民族の姿を紹介する。

(Alter Cine Inc.・Alba Films:オリジナル版制作/アジア太平洋資料センター:日本語版制作/ビデオ/55分/8,000円)

## TIAライブラリー利用のご案内

図書・ビデオ等を借りるには貸出券が必要です。貸出券はとちぎ国際交流センター1階受付カウンターでお作りします(身分証明書の提示をお願いします)。なお、資料等の貸し出しは、図書・ビデオ等を含めて1回5つまで、期限は2週間です。

## ■TIAライブラリー案内■ (貸出のお問い合わせはTIAまで)

### ●国際協力・交流関連団体等のインターネットホームページダイレクトリ '99



国際協力に関する情報を収集している国際協力プラザでは、その情報が利用しやすいよう、「国際交流プラザ選書」として図書にとりまとめていく。本書はそうしたシリーズの中の1冊。

ここ数年のパソコン人口の増加とともに、インターネット上で情報を収集するという手法が一般化する一方で、無数に存在

# トピックス TOPICS

## フランス・ヴォークリューズ県から 大学生と高校生が来県

今年で7年目を迎えるフランス・ヴォークリューズ県からの大学生及び高校生の受け入れ。大学生は10月18日から10月27日までの10日間、高校生は11月2日から14日までの13日間、それぞれ受け入れた。

来県した大学生は、アヴィニヨン食品産業経営高等学院で食品流通を勉強しているフレデリック・ド・クレージュさんとアレクサンドル・イユリさんの2名。ヴォークリューズ県の特産ワインの販売促進のために、東京のフランス大使館で関東地域の輸



ふるさとマロニエフェア  
会場にて  
(中央2人が大学生)



▶剣道に挑戦  
宇都宮清陵高校体験通学

## ふるさとづくり事業で 日系ペルー人が来県

日本からペルーとボリビアへの移住が始まつてから100周年になることを記念し、日系人青年リーダー等を招いて交流を促進する「ペルー・ボリビアとの国際交流を通じたふるさとづくり事業」が10月12日から21日まで実施された（事務局：財団法人国際化協会内）。この事業のプログラムは、東京での中央交流事業と、参加者ゆかりの都道府県での地方交流事業に分かれる。

TIAでは、10月15日から19日までの地方プログラムを受け入れた。来県したのはペルー出身で日系2世の公認会計士、幅上マリオさん。幅上さんは、県生活環境部長やTIA理事長の表敬訪問、益子や日光などの県内視察のほか、公認会計士事務所で日本の会計士の仕事ぶりを見学した。また、親族宅でのホームステイも行った。



益子焼に見入る幅上さん

入業者を招いて説明会を行ったほか、都内や県内のワイン小売店で市場調査をし、また、ふるさとマロニエフェアの会場に設けられたヴォークリューズコーナーの試飲会で、来場者にワインをふるまうなどした。

一方、高校生は、ヴォークリューズ県議会のギレース・ドマルシュさんの引率のもと、女子生徒4名、男子生徒1名の計5名が来県。入国後の県内外視察を経て、メインプログラムである県立宇都宮清陵高校での体験通学や生徒宅でのホームステイに移った彼らは、日本滞在期間の大半にあたる日数をホスト家族と過ごし、日本の日常生活の一端に触れる一方、高校で日本の高校生と一緒に英語や理数科・芸術等の授業を受け、放課後には茶道や柔道などの部活動にも参加した。また、近くの小学校や中学校を訪問し、児童や生徒たちと交流したり、工場や造り酒屋などの見学も行った。

インディアナ州マーク

開会式でのテープカット

スタッフジャンパー

国際交流コーナー展示

### ふるさとマロニエフェアで インディアナを紹介

個性豊かな地域づくりと県や市町村のイメージアップをはかるため、地域の特産品を一堂に集めての展示・即売を行ったり、観光・郷土芸能等の紹介をする総合イベント、「ふるさとマロニエフェア」。

10月23日～25日に開催されたふるさとマロニエフェア'99には、例年設けているヴォークリューズ県の紹介コーナーに加え、今年7月に姉妹提携したアメリカ・インディアナ州の紹介コーナーを設置。新たな交流先の理解に一役買った。

プレジャーホーム外観

インディアナ紹介コーナー(屋外)

国際交流コーナーで  
クイズに答える来場者たち

インディアナクイズシート  
(左2枚は子供向け)

プレジャーホーム内部

1999年10月30日(土)31日(日)開催

# とちぎ インターナショナル フェスティバル'99

▶JICA紹介コーナー。普段見るこ  
とのできない国際協力の現場の写真や  
内容を図解したパネル等を展示。



去る10月30日(土)31日(日)の両日、とちぎインターナショナルフェスティバル'99を開催した。

30日は定員制の講座形式。ディスカッションや華道・茶道など各種講座が開催され、外国人約100名を含む200名ほどが参加した。

31日は駐車場や屋上に設置した出店で、海外の郷土料理や手工芸品などが販売されたほか、館内でも、民族舞踊の披露やバザー、講座や相談コーナーが設けられ、外国人約800名を含む2000名以上の来館者で賑わった。

30日



日本の食文化紹介 …初めて日本料理に挑戦する人もいたが、出来ばえはなかなかのもの。



外国人と日本人によるディスカッション…テーマを設けて意見交換。



華道紹介 …ほかに茶道やきもの教室などの日本文化紹介講座も開催された。

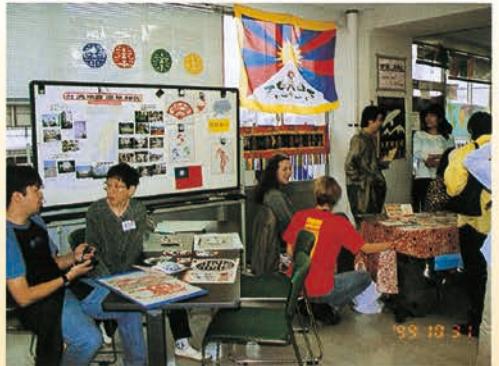
31日



1階の催し…パソコンで「とちぎ度」判定コーナー。子供の挑戦者がほとんどだった。



2階の催し (ホール) …民族舞踊や歌などのライブを開催



2階の催し…物産展示販売。



2階の催し…ボランティア医療チームによる無料健康相談。



3階の催し (屋上) …3階にもテントを張り、エスニックフードの販売が行われた。



3階の催し (和室) …お茶などの無料体験コーナー

# レポート

## 浙江省国際友好都市交歓会 県民訪中団派遣

栃木県と友好交流関係にある中国の浙江省で、去る9月25日・26日の2日間、「第2回浙江省国際友好都市交歓会（カーニバル）」が開催された。これにあわせ、県民訪中団が9月24日から29日までの6日間の日程で中国を訪問した。

一行は、上海で雑技を鑑賞したり、豫園や外灘の観光のあと、浙江省の省都、杭州市に入り、栃木県の友好会館である杜鵑樓



▲杜鵑樓の前で



（とけんろう）に滞在した。

友好都市交歓会では、昼のプログラムとして、友好交流パネル展や市民広場での交歓会、国際マラソン、講演会などが行われた。夜は杭州劇院で「文芸の夕べ」が開催され、地元浙江省の舞踊団の歌や踊りのほか、フランスの手品やドイツの合唱団のコラス、韓国の樂團の演奏、スイスのジャズバンドの演奏や南アフリカの踊り、タイの民族舞踏等が披露された。

団員はこれらを楽しんだあと、紹興酒で有名な紹興市を観光した。



▲紹興市に残る  
文学者魯迅の生家  
▲魯迅（ろじん）

## こんな店 あんな店

### 中華料理

ロサ  
羅紗（宇都宮市滝の原）



テレビ朝日のワイドショー、TBSテレビの「王様のブランチ」、テレビ東京の「火曜ゴールデンワイド」など、全国ネットのキー局のテレビ番組で紹介され、更には県外で出版されているガイドブック類にも掲載されるなど、全国的に有名な中華料理店「羅紗（ロサ）」。週末ともなれば、県外からのお客が来ることもしばしば。評判を聞きつけて、北は北海道から南は四国・九州まで、遠方からわざわざ足を運ぶお客様も多い。

「お客様に喜ばれるものを」が信条のご主人のこだわりは、既製品を使わないということ。ラーメンのタレや餃子の皮はもち



▲本格中華料理から酒のつまみまで

ろんのこと、回鍋肉（ホイコーロー）の味噌なども自分で練って作る。中華料理に携わって30年以上、東京・赤坂の有名中華料理店で仕事をしていたご主人の腕が生み出す料理の数々は、ちょっと他では味わえないものばかりだ。研究熱心なご主人の努力もあり、メニューは平成元年のオープン以来増えづけ、現在では食事メニューだけで約80品目あるという。揚げパンの銀絲巻（インスチエン／単品価格170円）やふかひれ餃子（単品価格480円）など8種類を含む飲茶点心コース（1,800円）、酒のつまみになりそうな台湾風の豆腐和え（380円）をはじめとする一品ものなど、軽く食べ



▲冴えるご主人の腕



▲お薦め！蒸餃子

られるものがある一方で、芝海老のチリソース煮（1,200円）などの本格中華料理も味わえる。お薦めは蒸餃子（600円）で、生姜とのハーモニーが絶品。蒸餃子を扱う店がほとんどない宇都宮にあって、蒸餃子メニューを数種類揃えているのは貴重な存在だ。

20名が入れる部屋もあり宴会も可能。また、この秋からは「おいしいもの色々、あなたの食生活の楽しみを広げます」をキャッチフレーズに中華食材などの通信販売も始めるという。

▶営業時間＝ランチ 11:30～14:00、  
ディナー 17:30～22:30▶定休日＝月曜日▶住所・電話＝宇都宮市滝の原1-3-54 TEL028-632-8135 ▶アクセス＝  
関東バス37番（桜通り経由）で滝の原バス停下車徒歩3分。



## 外国人のための法律相談会

11月2日、栃木県弁護士会とTIAが共催で、外国人の相談に応じる無料の法律相談会を開催した。この相談会は95年から実施しており、今年で5回となる。今年は直接の来訪による面接相談が8件あり、電話による相談はなかった。



▲午前中の相談にあたった小林弁護士（左）と渡辺弁護士

相談者の国籍はペルー、中国、ブラジル、フィリピン、イランの5か国。相談内容は、日本滞在や離婚など、ビザや民事に関する相談が多く、中には「犯罪に巻き込まれてしまい、帰国したいのにできない」といった刑事がらみの相談もあった。

相談に来たある外国人は「自分の国と日本では法律が違うため、保障されて当然だと思っていたことが日本では保障の対象になっていたいなかったりする。」などと話していた。



▲午後の相談にあたった大木弁護士（左）と原田弁護士

# 情報発信 地域の国際交流案内

## ★国際協力シンポジウム

▶テーマ=地球市民として私たちにできること—日本の国際協力の現状と課題▶期日=平成11年11月23日(火)13:00~16:00▶会場=宇都宮大学(大学会館多目的ホール)  
▶内容=①基調講演:友松篤信(農学博士・宇都宮大学国際学部教授)②話題提供:栃木県JICA専門家連絡会会員、栃木県青年海外協力隊OB会会員、宇都宮大学留学生③パネル座談会:テーマー地球市民として私たちにできること▶主催=栃木県JICA専門家連絡会、国際協力シンポジウム実行委員会▶共催=国際協力事業団関東支部▶連絡先=栃木県JICA専門家連絡会事務局(財団法人栃木県国際交流協会内TEL028-621-0777)

## ★1999年海外留学フェア

▶内容=各国の教育制度・留学手続き等の説明、各大使館担当者等による情報提供、留学体験者による体験談(英語圏除く)、留学に必要なテストに関する情報、各国の治安・安全に関する情報提供、奨学金留学に関する資料提供など。▶対象=海外留学希望者(高校留学除く)。対象地域=アジア地域、オセアニア地域、北米地域、ヨーロッパ地域。▶開催場所=東京国際フォーラムホールB▶開催日時=1999年11月27日  
▶開催時間=資料情報提供等は午前10時から5時まで。教育制度や手続きの説明等は時間限定。▶入場料=無料▶主催・問い合わせ先=財団法人日本国際教育協会留学

情報センター 〒153-8503 東京都目黒区駒場4-5-29 TEL.03-5454-5216(音声・FAX.情報案内サービス)

## ★漢語進修生春入学コース

外国人クラスで中国語を学ぶコース。中国の新学期開始は9月のため、春からの留学は年度途中からの入学となる。大学により、中途編入する場合と、新規に設置されたクラスに編入する場合がある。

▶出願資格=①健康で団体生活のできる人。②中国政府の法律、法令、及び学則、制度を遵守する人。③志望校の出願資格にあてはまる人。▶出願書類=①志願書1通(所定の用紙あり)②成績証明書(和文)1通③留学申請手続料の振込証明書1通▶出願締切=第一次締切は99年10月、第二次は11月、最終締切(第三次)は99年12月13日。▶留学申請手数料=35,000円。▶留学期間=2000年2月下旬の入学から半年以上。▶問い合わせ・申し込み先=日中友好協会留学センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-4 日中友好会館6階TEL.03-3291-4231 FAX.03-3291-4237

## ★インドネシア・スンバ島ワークキャンプ

▶日程=1999年12月24日~2000年1月4日  
▶場所=インドネシア小スンダ列島スンバ島(バリ島経由)▶キャンプ内容=植林ワーク・現地人との交流、生活体験等。※詳細は事前準備会で参加者の意見をもとに決定。▶参加資格=主催する会の趣旨に賛同し、国内外での協力活動に関心のある人。年齢、渡航経験、語学力等は問わない。ただし、未成年者(20歳未満)は親権者の承諾が必要。▶募集人員=25名(最少催行人員12名)。引率者同行予定。▶参加費用=260,000円。非会員は別途入会金6,000円が必要。なお、個人的諸費用、空港使用料、

自由行動中の諸費用は参加費には含まれていない。▶申し込み方法=所定の参加申込書に必要事項を記入し、事務局あて郵送する。申込書の受付締切は1999年12月1日。▶参加費用の支払=郵便振替、もしくは事務局で直接支払う。支払期限=1999年12月3日。ただし、学生は分割払い可。▶主催・問い合わせ先=地球の友と歩む会 〒102-0071 東京都千代田区富士見1-5-11 奥田ハウス1階 TEL.03-3261-7855 FAX.03-3261-9053 ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/life/home/> 電子メール life@earth.email.ne.jp

## ★ピースボート~南回り地球一周

地球各地の寄港地のNGOや学生たちと交流しながら、草の根交流をするクルーズ。自分の都合にあわせての部分参加も可能。▶予定寄港地域=アジア・アフリカ・南米・大洋州▶資料請求先=ピースボート事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1 ノーカビル4階 TEL.03-3363-7561 FAX.03-3363-7562 ホームページ <http://www.peaceboat.org> 電子メール XLC00501@nifty.ne.jp

## ★スタディーツアー参加者募集

▶派遣先=スリランカ(中央州)▶派遣日程=2000年2月23日~3月13日▶説明会=1999年12月4日13:00~16:00p.m.、国立オリンピックセンター(小田急線・参宮橋駅下車)。詳しい研修内容の説明、スライド上映、過去の参加者の体験談など。東京以外でも説明会開催予定あり。▶主催・問い合わせ先=アジア交流研究所 〒113-0033 東京都文京区本郷2-24-1 本郷NYビル101 TEL.&FAX.03-5840-9566 ホームページ <http://www.asia3.com> 電子メール asia3@asia3.com▶後援=スリランカ大使館

## TIA賛助会員募集中!

賛助会員になっていただきますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等をお届けします。またテレビ方式変換ビデオ(海外→日本、日本→海外)をご利用できます。その他、会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円です。

※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使わせていただいており、地域の国際化のために役立っています。

## 優雅な時間への、おもてなし。

四季の変化を、華やかに映す二万坪の大庭園。

季節の花に彩られた館内。

古き良き伝統を受け継ぐ、宇都宮グランドホテルは、

優雅な時をお客さまへ贈ります。

思い出深いひとときを過ごされますよう、

笑顔と温かいおもてなしを添えてお迎えいたします。



U TSUNOMIYA GRAND HOTEL  
宇都宮グランドホテル  
宇都宮市西原町142 TEL 028-635-2111

# TIA Information Corner

## 喜連川中学校の小堀くんが外務大臣賞受賞

第39回国際理解・国際協力のための  
全国中学生作文コンテスト



去る10月に開かれた「第39回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト（主催：日本国際連合協会・日本ユネスコ協会連盟）」で、栃木県大会から推薦した6人のうち、喜連川中学校の小堀裕士君がみごと外務大臣賞を受賞した。栃木県からの外務大臣賞の受賞者は平成2年以来、実に9年ぶり。また、男子生徒の受賞も平成6年以来という快挙である。

小堀君は、黒人の英語指導助手の先生との親交を通して、色黒で悩んでいた自分の劣等感を克服し、黒人に対する偏見を解消する様子を描いた（受賞作文は下記のとおり）。受賞の知らせが届いた日に小堀君に話を伺ったところ、「何かに応募するような作文を書いたのは中学校に入学してから初めて。外務大臣賞受賞の知らせは朝礼の時に担任の先生から聞いたが、実感がわからなかった。時間が経つにつれ、すごい賞をとったんだなと思った。」と素直に感想を述べていた。

### 外務大臣賞受賞作文

#### 「ロン先生から学んだこと」

「がんぐろ。」「黒人。」僕は色が黒いので、昔から友達などとけんかするとき、決まって言われる言葉が、この言葉だった。そしてそんな言葉を言われることがとても苦痛で、その言葉を言われたたびに、「なんで僕だけ色が黒いんだ。」と悩んだりして、

色の黒いことにコンプレックスをもつようになっていった。なぜなら、僕がもっていた黒人のイメージは「恐い」「遅れている」などのマイナスのイメージしかなかったからだ。

しかし、僕のもっていたその悩みが、中学校に入学して、ALTのロン先生との出会いによって変わっていった。

ロン先生は、とても体格のいい、黒人の先生だった。僕もみんなも最初は、「はだが真っ黒で、あんなに大きくて、なんだか怖そうだな。」と差別的な考えをもっていた。去年から教わっている上級生達がロン先生に会うと「ハイ、ロン。」などと声をかけていて、どうして話しかけられるのか不思議に思っていた。

しかし、ロン先生の授業を実際に受けみて、そんな考えはなくなっていました。先生はとてもおもしろく、表情豊かにいろいろなジョークをとばしながら、楽しく英語を教えてくれた。そんな先生の授業を受けているうちに、ロン先生の持ち前の明るさによって、閉じていた僕の心も開かれていた。そして、廊下で会った時のあいさつはもちろん、職員室に行くことがあると、用事がなくてもロン先生のところに行って話をしたりするようになってしまった。さらに、それまで抱いていた「恐い」とか「遅れている」とかの黒人に対する偏見がすっかりなくなっていました。

ロン先生との出会い。この出会いによって僕は、「黒人も白人も黄色人種も、みんな同じ心をもち、同じ体をもつ人間であり、色の違いというものはただの外見の違いにすぎない」ということがわかった。今では、友達に「色が黒い。」と言われても「人間

ははだの色ではない。心が肝心なんだ。」と思えるようになり、苦痛には思わなくなった。

人は、はだの色などの外見の違いのほかにも、文化の違いや宗教の違いなどいろいろな違いをもっている。しかし、それらの違いによって差別されるものでは決してなく、その違いを認め合い、尊重し合うことが大切なのだ。今、世界は21世紀に向かっている。同時に、環境問題や人口の急激な増加など様々な問題を抱えている。その中で、国境や人種を超えてこのような問題に対処していくこと、それが本当に必要なことなのだと思う。共に21世紀を生きていく人間として……。

(原文のまま掲載)

なお9月17日に行われたこのコンテストの予選ともいえる栃木県大会には県内22校から66編の応募があり、以下のとおり各賞が決定した。（敬称略）

▶最優秀賞=坂本恵美（栃木市立寺尾中学校3年）▶優秀賞=小堀裕士（喜連川町立喜連川中学校3年）、寺内 愛（栃木市立寺尾中学校2年）▶努力賞=阿久津翔吾（矢板市立片岡中学校2年）、高田麻衣（壬生町立南犬飼中学校3年）、松本うみ（小山市立小山中学校3年）

#### ＜新規賛助会員の方々＞

個人：佐藤康夫様、塙 悅郎様、篠川憲一様、薄井弘行様、石野綾乃様、リオン・デイビーリー様、ソニー・ペリンコフ様

団体：シャプラ・ニールとちぎ架け橋の会様、世界平和女性連合栃木県本部様～ご入会、ありがとうございました～

今年のとちぎインターナショナルフェスティバルは、2日間にわたりセンターで開催しました。今年は、事業所体験の一環として参加してくれた石橋高校の生徒さん5人のほか、社会人と大学生の女性がそれぞれ1名ずつ、貴重な休みを潰してボランティアとしてお手伝い下さいました。皆さん、とてもよく動いて下さり、感謝の言葉もありません。



◀エヌティーバルをお手伝い下さいました方々。



※財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人（寄附金の損金算入等の課税特別措置）の認定を受けています。当協会の事業にご賛同下さる企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。